



無煙炭化器 使用方法

弘前市
農林部
りんご課

※使用前に必ずご確認ください。

⚠ 注意事項

- 使用する前日までに、お近くの消防署または分署へ、「火災とまぎらわしい煙、又は火炎を発するおそれのある行為の届出書」を提出してください。
- 風が強い場合は、火の粉が飛ぶおそれがありますので、使用しないでください。
- 使用中は何が起きても対応できるように、その場を離れないでください。
- 誤った使用方法によっては、事故に繋がるおそれがありますので、取扱説明書をよく読み、以下の手順を守ってください。

① せん定枝の用意

なるべく乾燥させたせん定枝を用意する。

○ポイント

- ・枝に水分が残っていると、燃えにくく燃焼時間も長くなり、煙の発生原因となり、生成される炭の量も減少する。
- ・枝が太い場合は炭化に時間を要する。

② 炭化器の設置

火災の心配のない広い場所（土・コンクリートの平地）に設置する。

○注意事項

- ・燃えるため、アスファルトや草の上には設置しない。
- ・土の上以外で使用する場合は、台座を使用する。
- ・炭化器や台座の変形、空気の流入を防ぐため、底面のフチ周りには土を多く被せて目張りする。

③ 着火

焚き付け用の段ボールや細いせん定枝を炭化器へ入れる。それらを着火して熾火を作り、炭化器内の温度を上げる。

○ポイント

- ・着火時など炭化器内の温度が低いときは煙が生じる。
- ・着火箇所を複数にして器全体を温めると効率よく燃える。

④ せん定枝の初期投入

熾火ができあがってから、せん定枝を少しずつ、空気が通りやすいように、井桁状に配置しながら投入する。

○ポイント

- ・一度に多くのせん定枝を投入すると火力が下がり、煙が生じる。

井桁状



⑤ せん定枝の連続投入

火力が上がったら、連続的に枝を投入していくが、器いっぱいになった時点でいったん投入を止める。炭化が進み、器内の枝が沈降したら再度投入する。

○注意事項

- ・器から大きく盛り上げて投入すると、枝の重さで炭化器が変形するおそれがあるため、器いっぱいになった時点でいったん投入を止める。



枝を盛り上げないこと！

炭化器からはみ出す枝の長さは約10cmまでにすること！

○ポイント

- ・底部が酸欠状態になることから、炭化が進む。

⑥ せん定枝の投入終了

炭化が進むと火力が下がり、炎が小さくなる。炎が出ている部分は未炭化である。適度にかき混ぜ、炎が消えたら炭化完了。

⑦ 消火

【水をかけて消火する場合】

煙の出ているうちは火種が残っているので、完全に消えるまで十分に散水する。

【火消し蓋を被せて消火する場合】

炭化器に火消し蓋を被せて消火する。蓋のまわりに土を被せて空気が入らないようにする。一昼夜置くと炭が完成する。